

「地球温暖化は南極をどのように変えるか？」 -日豪共同研究の新展開-

日時：2025年7月28日（月）10:00～14:30

場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

最新の南極・南大洋研究ト ピックスと南極研究における 日本とオーストラリアの協力 関係について紹介します

主催：日本学術会議地球惑星科学委員会
地球惑星科学国際連携分科会
共催（予定含む）：国立極地研究所、
オーストラリア南極局、タスマニア
大学、オーストラリア南極プログラ
ムパートナーシップ
後援：独立行政法人日本学術振興会 二国
間交流事業 オープンパートナーシッ
プ(OP)研究共同・セミナー、豪日交流
基金、タスマニア州政府

プログラム

司会進行 平譯享（国立極地研究所）

12:00-13:00 休憩（昼食）

10:00 開式挨拶

三枝信子（日本学術会議第三部会員／国立環境研究所理事）

中村 卓司（日本学術会議第三部会員／国立極地研究所 教授）

Emma Campbell（オーストラリア南極局所長）

13:00-13:45 基調講演

座長：青木茂（北海道大学）

講演：Nathan Bindoff（オーストラリア南極プログラム
パートナーシップ/タスマニア大学）

「The role of the Southern Ocean in the Climate System: risk,
dangers and solutions」

（気候システムにおける南大洋の役割：

リスク、危険性、そして解決策）

10:05 趣旨説明

Tony Press（オーストラリア南極プログラムパートナーシップ）

10:10 講演（日本人研究者は日本語で講演）

1. 原田尚美（東京大学大気海洋研究所）

「第66次南極地域観測隊で実施された最新の観測研究」

13:45-14:20 パネルディスカッション

座長 So Kawaguchi（オーストラリア南極局）

2. David Gwyther（クイーンズランド大学）

「Emerging collaborative directions in ice sheet, ocean and sea
level research」

（氷床・海洋および海面上昇研究に関する新たな協力の方向性）

14:20-14:30 閉会挨拶

榎本 浩之（日本学術会議連携会員（特任）/

国立極地研究所副所長・特任教授）

3. Abigail Smith（オーストラリア南極局）

「Antarctic krill vertical migrations modulate seasonal carbon
export」

（ナンキョクオキアミの鉛直移動による季節的炭素輸送の調節）

どなたでも参加いただけます

英語の発表には同時通訳が付きます

人数：100名程度 定員に達し次第締め切り。

参加費： 無料

問い合わせ先：

antarctic.aus.jpn2025@gmail.com

4. 高橋晃周（国立極地研究所）

「南極の環境変化がペンギンに与える影響」

5. 溝端浩平（東京海洋大学）

「東南極氷床質量損失をもたらす海洋熱輸送過程」

6. Alex Fraser（タスマニア大学）

「Understanding Antarctica's changing sea ice」

（南極の海洋変動を理解する）

7. 江尻 省（国立極地研究所）

「南極大気の観測研究と日豪協力」

Credit: Pete Harmsen/AAD

参加申込み： 7月14日（月）までに

<https://forms.gle/3xjFvCwv2jgMcShh6>

または、右のQRコードよりお申し込み下さい（事前申し込み制）。

